宝物風入れ展

一年に一度
三日間限定の
文化財特別公開

志納金　600円

令和元年　11月　8日(金)～10日(日)　9時～15時

囲炉裏カフェ

8日～10日　毎日開催

住職が心を込めて手作りした精進菓子でおもてなし。楽しくお話ししましょう。

蕎麦切り奉納

9日のみ開催　午前10時

参拝者所願成就　大般若祈祷
引続　新蕎麦のふるまい

ドラマチック栖雲寺

8日、10日の10時と13時

住職による、寺宝を用いたお寺の歴史説明と境内案内。

法話スペシャル

9日のみ開催　初回10時30分
以後毎時0分、30分スタート

建長寺派布教師の「たからもの」をテーマにした20分法話。

テレビ放送記念！！

10日のみ

＜軍配を手に写真撮影＞

信玄公の命を守った
身代り軍配

川中島の合戦では上杉謙信公との一騎打ちで使われたと伝わる栖雲寺所蔵の文化財『信玄公鉄製軍配』を宝物風入れ展で特別公開します。

フジテレビ「世界の何だコレ！？ミステリー」の放送を記念して、重さ約３ｋｇの軍配を実際に手に取っていただけます。

★写真の撮影も可

日時：11月10日の10時と13時　ドラマチック栖雲寺内
場所：境内および宝物風入れ展開場内

※年齢制限はございませんが、小さなお子様は必ず大人の方の補助をお願いします。また、現地係員の指示には必ず従ってください。

栖雲寺たより

天　目

第３０号

発行日
令和元年１０月１日

天目山茶会　盛会裏に終わる

令和元年６月２日の日曜日に茶会を開きました。春の開催は今年で３回目になります。

茶道表千家の先生方にも協力をいただき、約１００名の善男善女が天目山へ足をお運びくださいました。

「山中に暦日無し」新緑と澄んだ空気の中、幻住禅の古道場で、時空を超えたひと時をお過ごしいただきました。

掛物は「夢」　三代前の管長　曇華老師

石庭会館では席主として来山者をおもてなし

石庭最上段の東屋には野点席

掛物は「○呼来山頭一片明」　建長寺現管長　栢樹老師
釜は山梨名物「ほうとう」の鍋

次回は紅葉の季節１１月９日、１０日の宝物風入れ展内、庫裏の囲炉裏で茶席をご用意いたします。

また、来年は６月７日(日)の開催を予定しております。

臨済宗建長寺派　天目山 栖雲寺　　住職　青柳真元
〒409-1201　山梨県甲州市大和町木賊122　TEL　0553-48-2797
http://www.tenmokusan.or.jp [栖雲寺]で検索　ブログ毎日更新

軍配がテレビで放送されました

栖雲寺が所有する甲州市指定文化財の信玄公鉄製軍配が、フジテレビの番組『世界の何だコレ！？ミステリー』に取り上げられて６月１２日に放送されました。撮影は５月１９日、２０日の２日間で行われ、社会科の教員免許を持つあばれる君がロケに来ました。オンエアは１５分程度と思いのほか長時間の放送でしたので、その反響は大きく来山者や問い合わせも多くあり、とてもありがたいことです。

ちょうど宮迫さんの反社の闇営業ニュースが出た直後だったので、お蔵入りの可能性や番組の存続自体を心配してしまいましたが無事放送され、宮迫さんの出演シーンがカットされたおかげ？で栖雲寺の時間が長くなったのかもしれませんね。

住職とあばれる君

勤　労　奉　仕

毎年恒例の禅庭草刈り。今年は7月1日に行いました。主に天目地区の檀家さん、また大月や東京からも駆けつけてくださった檀家さんとともに境内清掃。私もエンジン付きの草刈り機を肩から掛け、バリバリと石庭の草を刈り払い。
ご参加いただいた檀家様、暑い中をお疲れ様でした。おかげ様でとてもきれいになりました。

市内の小中学校に
栖雲寺参拝の輪が少しずつ

本堂そうじ

庫裏そうじ

５月３０日に勝沼の菱山小学校が校外学習で初めてお寺に来てくれました。もちろん地元の大和小学校も昨年と同様に夏休みの寺子屋学習会として７月２７日に来てくれました。そして９月２０日には大和中学校の２年生です。法話と坐禅の研修、禅寺掃除体験などでお寺を利用してもらいました。この輪がもっともっと広がっていきますように。

写真集奉納

大和町の写真家、佐藤真樹氏が四季折々の天目山や数十年かけて撮影してきた今昔の天目山をまとめた写真集を自費で作成され、栖雲寺にも貴重な一冊を御寄贈くださいました。新緑や紅葉、雪の写真を撮るために何度もお寺に足を運ばれたとのこと。ドローンまで飛ばしての撮影でした。後世まで残る大事な宝物となるでしょう。ありがとうございました。

登　竜　門

山主　青柳真元

建長寺龍王殿の木魚

今から約３５０年前にインゲン豆を中国から伝えたのは臨済宗と同じ系統の黄檗宗、隠元禅師(いんげんぜんじ)です。他にも西瓜や蓮根など食卓で身近なものも隠元禅師の請来によるものです。そしてもう一つ誰でも知っているお寺に欠かせない仏具を伝えてくれました。それは木魚でインゲン豆の隠元禅師によるものなのです。栄西禅師が臨済宗を伝えて約８００年と考えると、木魚は隠元禅師が伝えてまだ歴史が浅く約３５０年。それまではどの宗派にも木魚は無かったので、独特の節でお経を読んでいたのですが、伝来により臨済宗でも読むお経の多くが木魚に合わせて読めるようにと改変されました。そのなごりは今でも残っており、木魚が有る時と無い時では同じお経でも全く違う読み方をします。

現在はお経のリズムを合わせるために使いますが、ではいったいなぜ魚なのでしょう。魚はまぶたがなくまばたきもしないので、眠ることがないと考えられていました。そんな魚を見習って、寝る間を惜しんで坐禅をしなさい、という戒めと励ましが込められているのです。

木魚は下の写真のような向きに置くとよくわかりますが、魚の上に竜がいます。これは中国の故事『登竜門』を表しています。鯉が黄河の激流を遡り、その上流にある竜門の滝を登りきると、その鯉は竜になるという伝説が登竜門の話しで、現代では御承知のとおり立身出世の関門あるいは成功の手前にある難関を意味します。私たち修行僧を鯉に例え、行を修めて大成し竜になりなさい、という大悟徹底を象徴する仏具なのです。その厳しい修行のシンボル、眠気覚ましのシンボルをポクポクたたいているのですが、、、しかしどうでしょう？木魚のリズムでお経を聞いているとむしろ眠くなってしまうような・・・実は自分で読んでいながら睡魔に襲われることもよくあります(笑)木魚を打ちながら完全に眠ってしまったという、人智を超えたはたらきを見せた修行僧もいるくらいです。

栖雲寺の前を流れる日川渓谷には整備された歩道が並行していて、そこは『竜門峡ハイキングコース』といいます。この竜門峡は開山業海本浄禅師が名付けられたもので、禅師が定めた天目十峡の一つでもあり、そこにはちゃんと竜門の滝も存在します。昔の禅僧達は、この険しい絶壁の渓谷を登り、上流にある竜門の滝を超え、さらにその先にある栖雲寺の禅庭で、悟りへの修行をされたのです。天目山は登竜門の故事をそのまま具現化した地であり、山全体が修行道場なのです。

私もしばしば石庭で坐禅をしますが、古の祖師方の固い決意や求道心を想うと、身も心も引き締まります。ぜひ一度、禅庭の石上に坐ってみてください。自然と一体になって坐ると、欲や怒りは静まり心が透き通ってきます。いまここにある命の不思議に自ずと感謝の心が芽生え、そしてまた同時に明日への活力がみなぎってまいります。